

陶土屋さん
からの
ニュースレター**磁器**
シキよまんば!

[早くよまなきゃ!]

巻頭のあいさつ

新型コロナウイルス感染症の影響が依然として続いています。皆さまはいかがでしょう？
当社も出荷量が減ったまま、厳しい状況が続いておりますが、ピンチをチャンスに変えることが出来るよう取り組んでまいります！

**海外へ土を送りました!**

5月に中東、カタールへ粘土を送りました。きっかけは陶芸家 佐藤美佳さまのご紹介です。ご紹介いただいた後、送り先の方とメールでやり取りをし、最終的に 500 キロのご注文をいただきました。コロナの状況の中、すごくありがたかったです。佐藤さま、ありがとうございました。

輸送は船便でした。この船便にはコンテナを使います。ときどき街中でトレーラーに積まれて走っているのを見かけるあれです。コンテナの種類は2つあって、長い方のコンテナが 40 フィート、短い方が 20 フィートと呼ばれています。

長い方も短い方も積載重量は 20 トンです。今回送る重量は 500 キロですので、一つのコンテナを共同利用するコンテナ混載便 (LCL) を使いました。

当社から出荷後の流れは次のとおりです。伊万里港に持ち込み→伊万里港にて輸出手続き→博多港から釜山港へ→釜山港にてカタール行に積み替え→ドーハのハマド港に向けて出港。

私にとってカタールは馴染みの薄い国でしたので、船便の便数など心配をしましたが、全く問題なく、釜山からは週に一便ずつ船が出ていました。また、ヨーロッパがロックダウンした時期でもあったので、その影響も心配しましたが、これも無く、カタール行の便は通常運行でしたので無事に出荷できました。

カタールまでの運賃は手続きを含めて5万円ほど。思いのほか安かったです。これは伊万里港からハマド港に着くまでの料金です。また、釜山港からは世界の至る所に向けて船が出ていることも知り、勉強になりました。

「日本の磁器土を購入したい!」そんな海外のお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非当社をご紹介ください。淵野直幸

今回は
絵本です!**二番目の悪者**

久しぶりに本の紹介です。佐賀新聞に載っていたことで知りました。

自分勝手な金のライオンが善良な銀のライオンを貶める、というお話です。この金のライオンが一番目の悪者。では、二番目の悪者は誰かというところ、われわれ一般の民衆です。

金のライオンは自分が王位に就くため、銀のライオンの悪い噂を流布します。この噂は全くの嘘なのですが、噂を聞いた周りの動物たちはなんとなく信じていってしまいます。その結果、金のライオンが王様となり国が亡びるので。

終わりに「金のライオンだけが悪かったのか?」そんな問いかけがあります。悪い噂を鵜呑みにした動物たちに責任は無いと言えるのか? 事実かどうかよく確かめるべきではなかったのか、という内容です。

これは、コロナに振り回される今の日本にも当てはまると思います。PCR検査での陽性判定者を感染者と呼び、毎日のように不安を煽るような報道を行うテレビや新聞。そのような情報をわれわれは鵜呑みにしすぎていないか?

医療に関しては素人ですが、現状に疑問を抱いています。普段、われわれが体験する医療は、症状を確認し、血液やレントゲンなど各種検査データを取り、総合的に医師が診断を下す、そのようなプロセスだと認識しています。ところが、コロナに於いてはPCR検査のみが神様のように信じられ、判定結果だけが一人歩きしているように私は感じるので。

PCR検査はウイルスらしきものの存在を確認する方法であって、ウイルスが活性かどうかや、対象者の症状、他者への感染などを判定するものではないはず。感度が100%でもありません。なのに、マスクやフェイスガードを強調し、不安に陥れ、その結果が感染者と呼ばれる人への誹謗中傷につながっているのではないかと思っています。個人的には松本サリン事件に似た印象すら受けています。

情報が溢れる今の時代、それを受け取るわれわれの取捨選択が問われるのではないのでしょうか。



帯に注目!



会長さんの 第22話 昔話

昭和57年7月、長崎空港から飛行機に乗り、電車を乗り継いで岐阜県多治見市に向かいました。目的は、(株)マルイ陶料所(現マルイクレイアンドセラミックス(株))さんでボールミルを使った粘土の作り方を学ぶことでした。38歳になる直前でした。多治見滞在中のちょうどそのときに長崎大水害

が起きたのを覚えていいます。ビジネスホテルに泊まり、そこから一週間通い、毎日基礎から教えていただきました。化学分析値からモル比に変換して成分を割り出す計算方法や、比重から乾燥重量を割り出す計算式、ポットミルを使った試作の仕方、焼成確認、ボールミルの選定方法、生産の際の計量などなど。当時社長の伊藤正信さん、安田さん、みなさんに大変お世話になりました。おかげでこれまで知

らなかつたことをたくさん学び、わが社のその後の業績の土台となりました。そして、そのときの助言の一つが「息子を大学へ行かせなさい。大学は東工大か名工大」です。これに従い、息子は名工大(名古屋工業大学)に入學しました。このような出来事があり、マルイさんには感謝してもしきれないくらいのご恩があります。実習を終え、佐賀に帰るとすぐにポットミル設備、定温乾燥器、電気炉、中古の200

キロボールミルと、今まで無かつたものを立て続けに購入し、試作が出来た環境を整えていきました。電気炉については「土屋に窯がなくてどうする!」と強く勧められていました。それから生産の仕事しながら、時間を作っては新しい調合を考え、それを試作し、粘土としての感触や成形能などを見て、焼成して焼き上がりの色や状態を確認する、というのを繰り返していきました。



定温乾燥器



中古の200キロミル



ポットミル

そんなとき、ある窯元さんから新しい粘土を作れないかという相談がありました。取り組んでみたいと返答し、原料の選定、調合割合の検討をし始めました。この場合のように、試作品の評価をしてくれる相手がいると非常に

助かります。そして、このときに出来る粘土が、のちに大ヒット商品になったのです。(次号へつづく) 洲野義則
前回、伊藤正信さんの字を誤って記載しておりました。お詫びして訂正いたします。

こちら たけふみです!



長男の剛史です。今回もちろん強制です(笑)。8月のお盆から夏休みなので、帰省中に書かされています。

長崎大学工学部工学科化学物質コースの2年生、2回目の2年生です(^_^; セラミックスが学べるコースです。2回目の理由についてはいずれ折をみてお話したいと思います。

今回は、長崎大学が新型コロナウイルスの検査で活躍したことを紹介します。2月後半から三菱重工長崎造船所にクルーズ船コスタ・アトランチカが修繕のためドック入りしていました。1月末の長崎港入港以降、停泊中は乗員の交代や業者の出入りはあっていたようです。

そして4月後半、発熱した乗員一人のウイルス検査を行ったところ陽性。乗員は623人。この頃の長崎県内の1日あたりの検査能力はおおよそ140件。そこで、感染拡大を防ぎたい長崎県からの要請を受け、長崎大学熱帯医学研究所が4月21日から24日にかけて全乗員のウイルス検査を行い、148名の陽性判定ができました。



共同開発した
検査システム装置

このとき用いたのが、長崎大学とキャンメディカルシステムズ(株)が共同で開発した蛍光LAMP法による装置です。PCR法による装置ではありません。従来のPCR法だと5~6時間かかる検査が、この蛍光LAMP法のシステムだとおおよそ40分。これにより、研究所だけで600人以上の検査が可能だったそうです。

蛍光LAMP法もPCR法も共に遺伝子を増幅する方法です。わずかなウイルス数でも増幅することにより検出可能になります。なので、検体採取時にわずかなウイルスしかなかった人もたくさんのウイルスがあった人も同じ陽性と判定されます。つまり、他人にうつすかもしれない人もそうでない人も同じに括られてしまいます。

今後は、リアルタイムPCRなどのウイルス数を測れる方法も使って、陽性判定者のウイルス数の統計を取ると良いのではと思います。そうすることで、同じ陽性でも他人にうつす確率が高い人の割合がわかり、陽性というだけで差別されるような事態が改善されるのではないのでしょうか。 洲野剛史



コスタクルーズ客船
コスタ・アトランチカ

ニュースレターの感想
お待ちしております♪

いつもお読みいただきありがとうございます! スマホやパソコンからニュースレターの感想が簡単に投稿できるようになりました。ご意見、ご感想をいただけるとうれしいです♪

ご意見ご感想は
こちらから★

